

2 夫婦間での行為についての暴力としての認識

15 項目の行為をあげて、それが夫婦間で行われた場合に「暴力」にあたると思うかの意識を聞いた。この調査における「夫婦」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦も含まれている。

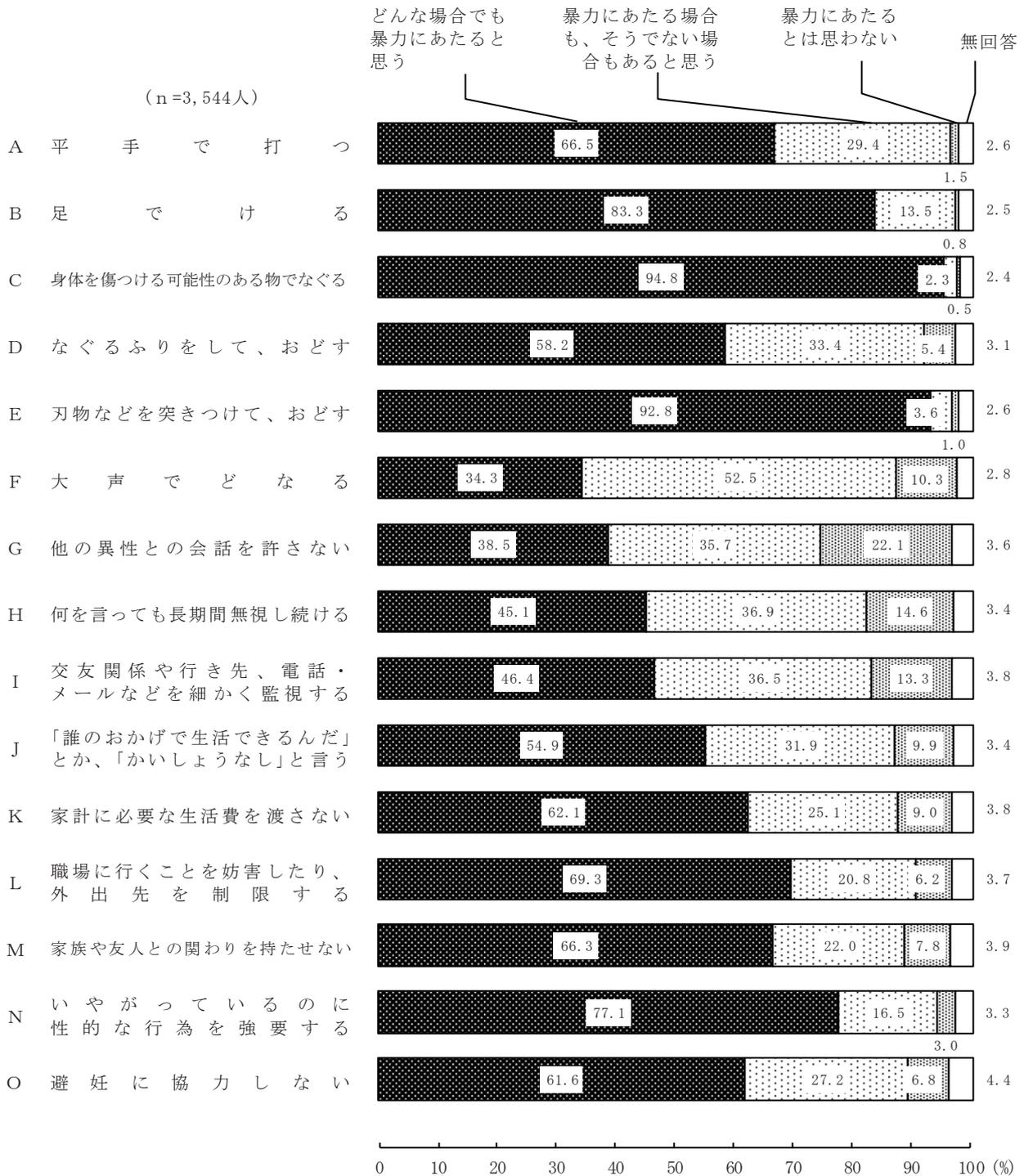
「どんな場合でも暴力にあたると思う」と考える人が多いのは、“身体を傷つける可能性のある物でなぐる” (94.8%) と “刃物などを突きつけて、おどす” (92.8%) で、9 割以上の人が『暴力にあたる』と認識している。

また、“足でける” (83.3%)、“いやがっているのに性的な行為を強要する” (77.1%) は約 8 割の人が、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と考えている。

一方、「暴力にあたるとは思わない」は、“他の異性との会話を許さない” (22.1%)、“何を言っても長期間無視し続ける” (14.6%)、“交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する” (13.3%)、“大声でどなる” (10.3%) が 1 割を超えている。(図 2-1-1)

問3 あなたは、次のようなことが夫婦の間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。
A～Oのそれぞれについて、「1」から「3」のうちあなたの考えに近い番号に○をつけてください。なお、ここでの「夫婦」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦も含みます。
(○はそれぞれ1つずつ)

図 2-1-1 夫婦間での行為についての暴力としての認識



男女別にみると、『暴力にあたる』と認識する行為と、『暴力にあたらない』と認識する行為に大きな差はみられないが、“大声でどなる”や“他の異性との会話を許さない”、“家計に必要な生活費を渡さない”など、心理的・経済的な行為については、女性のほうが「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が多くなる傾向がみられる。(図2-1-2)

図2-1-2 夫婦間での行為についての暴力としての認識(男女別)

